

添付資料5 エル・サルヴァドルの概況と調査地域の位置づけ

5-1 自然環境

(1) 気候

エル・サルヴァドル共和国（以下、単に「エル・サルヴァドル」という）は、緯度的には熱帯に位置しているが、標高によって5つの気候タイプに分けられる。標高100m以下の海岸沿いの地域では最高気温の年平均が30℃を超えるが、標高500m～1,000mの人口集積の大きい高原地域は20～27℃と比較的しのぎやすい気候を示す。また、標高が2,000m以上の高山地域では、8～18℃と冷温帯気候となり、植生もわが国にみられるようなマツ等の針葉樹林が分布する。気候的に中間ゾーンとなるサン・サルヴァドル市の月別平均気温は、年間を通して21.9℃（12月）～24.4℃（4月）と大きな変化はないが、首都のサン・サルヴァドル市をはじめ、主要都市や集落の多くが標高の高い（約600m以上）高原や山間盆地にあるため、実際には最低気温の平均が12℃、最高気温の平均が19℃と、亜熱帯地域に近い温和な気候である（収集資料55）。ただし、これについては、『理科年表 平成11年』によれば、サン・サルヴァドルについての1961～1985年の統計期間に対して、年間平均気温23.1℃等とある。

また、降雨量は季節によって大きく異なり、雨期と乾期に分かれている（図5-1）。乾期は11月～4月、雨期は5月～10月であり、日本の寒候期にあたる12月から3月は乾燥した晴天がつづく。（参考；表5-1・本章末尾添付、収集資料44）

5月から10月までは雨期に相当し、6～9月の各月は乾季の10倍以上の降水量がある。年間の降水量は1,850mm（出典；国別情報ファイルー中米地域（1995, JICA））で、わが国とほぼ同じである。調査対象地域の大部分は、北東部山岳地および中央部火山帯に位置し、標高が高いため、天候は変わりやすいが気温は比較的低く涼しい。

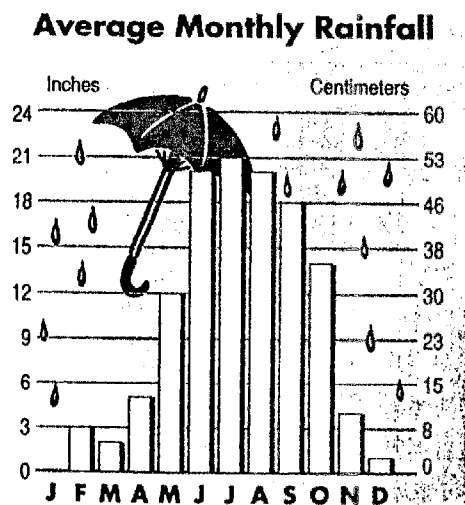


図5-1 月別の降水量

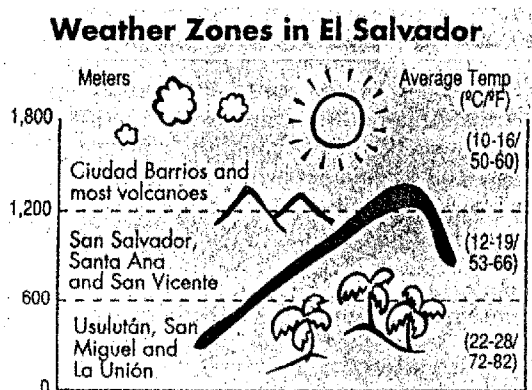


図5-2 標高と地域別年間平均気温の関係

（図5-1, 2の出所：On Your Own In El Salvador, 1996）

表5-2 雨期・乾期の期間と年平均気温

Época del año	Principio	Final	Días	Duración semanas
Estación seca	14 nov.	19 abril	157	22 1/2
(Transición seca-lluviosa)	20 abr.	20 mayo	31	4 1/2
Estación lluviosa	21 mayo	16 oct.	149	21
(Transición lluviosa-seca)	17 oct.	13 nov.	28	4
			365 días	52 semanas

Promedios mensuales de temperaturas
Estación: San Salvador

E	F	M	A	M	J	J	A	S	O	N	D
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

Promedios mensuales de la temperatura (°C)

22.0	22.5	23.7	24.4	23.9	23.0	23.0	23.0	22.6	22.5	22.3	21.9
------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

Promedios mensuales de la temperatura máxima (°C)

29.7	31.0	32.4	32.6	31.4	29.9	30.0	30.2	29.5	28.9	28.6	28.8
------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

Promedios mensuales de la temperatura mínima (°C)

16.0	16.1	17.3	18.5	19.0	18.8	18.3	18.4	18.6	18.5	17.4	16.5
------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

(出所: Geografica Visualizada, El Salvador, 1996)

(2) 地形・地質

エル・サルヴァドルは東西に長く南北に短い国土をなし、太平洋に面する。中米の大陸部では最小面積の国である。国土の大部分は500～1,200mの高原で構成され、概ね西から東にかけて2列の火山性山脈が平行して並んでいる。太平洋岸側を走る火山脈は、ごく新しい4つの火山群からなる。イサルコ火山・サンタアナ火山・サンサルヴァドル火山群、サンビセンテ火山群、サンミゲル火山群など、標高が2,000m前後の亜高山が連なり、最も高いサンタアナ火山は2,312mでエル・サルヴァドル第2の高峰である。内陸部を走る火山脈は、上記のものに比べて配列がはっきりしない。太平洋岸沿いの火山群は現在でも活動しており、激しい噴火と地震を起こしているものも多い。これら2つの山脈に挟まれたレンパ川沿いの低地と海岸沿い並びに東端部地域は、標高が100～500mで、沖積平野や内陸盆地が形成されている。同国は地震が多い国だが、北部国境沿いの山地は最も地震の少ない地域となっている(図5-3, 4; 本章末尾添付, 以下も同じ)。

また、エル・サルヴァドル最大の河川であるレンパ川(Rio Lempa)は、グアテマラとホン

ジュラスの高地に源を発し、国境沿いにホンジュラス高地と内陸中央火山山地の間を東西に流れたのち、国土を2分するように南北に向きを変えて太平洋側に注ぎ、国土の約50%の流域面積を占めて顕著な水系を形成している。一般に、山地は第四紀の安山岩や玄武岩質の火山岩から成るが、この水系沿いの低地は、礫、砂等が堆積する沖積層を形成している。(図5-5, 6)

5-2 社会・経済の概況

(1) 歴史と文化

エル・サルヴァドルは中央アメリカの中央部に位置し、西はグアテマラ、北・東部はホンジュラスに接し、北緯 $13^{\circ} 9' 24''$ から $14^{\circ} 27' 0''$, 西経 $87^{\circ} 41' 08''$ から $90^{\circ} 7' 50''$ に囲まれた範囲にあって、太平洋に臨む面積 $20,740\text{km}^2$ の小国である。

この国の国名は「救世主」を意味し、1522年にメキシコ征服をはたしたスペインのエルナン・コルテスの命をうけたペドロ・デ・アルバラドが1524年にこの土地に達したとき、救世主への感謝の記念として命名されたといわれている。以来、エル・サルヴァドルはスペインの支配下におかれ、グアテマラ・ホンジュラス・ニカラグア・コスタリカとともにグアテマラ総督領の一部となった。その後、1821年メキシコが独立したとき、同年にグアテマラ総督領もスペインからの独立を宣言し、エル・サルヴァドルはスペインの支配から離れることになった。その後、1824年から1841年まで「中米連邦共和国」に属することになったが、1841年連邦の解体とともに完全独立をはたし、現在に至っている。

上記の歴史にみるように、16世紀以降のスペインによる支配の影響で、多くの中米諸国と同様に、言語はスペイン語を国語とし、国民の圧倒的多数はカトリック教徒である。民族的には、スペイン系白人とインディオの混血であるメスティーソが84%、白人が10%で残りの6%がインディオで構成されているが、国民のほとんどを占めるメスティーソの社会では、インディオの生活様式や言語は完全に捨てられてしまっている。

(2) 社会

エル・サルヴァドルの総人口は590万人(1997年)で、人口増加率は年平均2.1%で増え続けている。15歳未満の若齢人口が36.8%、65歳以上の高齢人口は6.1%(いずれも1996年)と、若年層の多い国である。(出所; Central America Guide)

都市居住人口と農村人口はほぼ拮抗しており、人口密度は $280\text{人}/\text{km}^2$ で、アメリカ大陸諸国のなかで最も密度の高い国である。都市への人口集中は、中南米地域の他国に比べてさほど強くはない。都市の多くは気候が冷涼な標高600m以上の高地に分散している。

エル・サルヴァドルは14の県(Administrativa)に分かれており、それぞれの県内には表5-3に示す市または町がある(図5-7)。

全国には261の市町村があり、最近では地方分権化が進展して、市町村の権限が強くなって

きているという。首都のサン・サルヴァドル市には総人口の約7%, 42万人が住んでいるが、首都以外の中核都市はサンタ・アナ市（20万人）、サン・ミゲル市（18万人）、アウチャパン市（8.5万人）等で、他の都市は人口1万にも満たない小さい町がほとんどである。

表5-3 県別の主要市町の数

県名	県庁所在市	市（町）数
Ahuachanpan	Ahuachanpan	12
Santa Ana	Santa Ana	13
Sonsonate	Sonsonate	16
Chalatenango	Chalatenango	33
La Libertad	Neuva San Salvador	22
San Salvador	San Salvador	19
Cuscatlan	Cojutepeque	16
La paz	Zacatecoluca	21
Cabanas	Sensuntepeque	9
San Vicente	San Vicente	13
Usulután	Usulután	23
San Miguel	San Miguel	20
Morazan	San Francisco Lima	26
La Union	Puerto La Union	18

出所：Atlas Escolar, IGN, 1997（収集資料25）

エル・サルヴァドルでは、植民地時代の影響で歴史的に土地所有の偏在が大きく、少数の大地主が最良の大きな土地を所有し、コーヒー、綿花、砂糖キビの生産の大部分はこれらの事業家にゆだねられていた。その後、2度にわたる農地改革によって、245ha以上の土地所有は認められないことになった。地形図整備の要請地域は、農耕地、牧場、集落的土地利用が多く、土地が細分されている。

エル・サルヴァドルでは、植民地時代からの古い貴族やファミリーに代わって、コーヒー栽培で富と権力を得た「14家族」が、19世紀後半から20世紀初頭にかけて政治・経済を支配した。その後、1929年の世界恐慌を契機として、農民・労働者の支持を得た軍部のクーデターにより政権の交代をみてからは、数度のクーデターや政権交代を経験するなど不安定な社会が続いたが、1960年代に入り、国民共和党の率いる軍人が支配権を握るに至った。その後、1970年代になってからは左翼ゲリラによる反政府活動が活発化し、1979年には左翼ゲリラ連合組織（FM

LN) との内戦状態に陥り、1992年まで12年に及ぶ内戦が続いた。

この間、約100万人におよぶ国民がアメリカ、カナダ等に移住し、有能な労働力の海外流出、大規模な資本逃避、産業の低迷、内戦地域の荒廃、社会不安などの悪弊を招くこととなった。1992年、クリスティアニ政権誕生後に、長らく続いた内戦は和平を見いだした。軍部の縮小、治安の回復、大規模土地の再配分、国営企業の民営化、貿易・経済の自由化などが押し進められた結果、最近では中米では有数な治安の良い国へと変貌し、国民の勤勉さ・教育レベルの高さとも相まって復興が急ピッチで進んでいる。

首都のサン・サルヴァドル市はこの国最大の都市で、文化・経済の中心地として繁栄をきわめているが、市は創建後これまでに何回となく地震による被害を被っており、1854年、1873年の大地震では全市の建物が崩壊した歴史を有している。近年では1986年の大地震がまだ記憶に新しいが、ビルや住宅の建設が急速に進み、現在では外見的にはほとんど復興している。

その一方で、首都サン・サルヴァドル市では12年間に及んだ内戦の影響で、地方の住民が大量に市内とその周辺に移ってきたため、都市人口の急速な増加、失業者の流入と銃器のほぼ自由な流通による犯罪の発生、貧富の格差拡大、アメリカ等からの出稼ぎ労働者の帰還による地方定住基盤の整備など、新たな問題が顕在化している。

(3) 産業

エル・サルヴァドルの産業構造は、従来はコーヒー、綿花、砂糖等の大規模栽培とその輸出が経済の基幹をなしており、現在でも労働人口の約3割が農業に従事している。しかし、同国はもともと第二次大戦後には工業立国をめざし、1970年代前半には中米でも随一の工業国に発展した歴史を有している。その後、内戦の勃発で工業生産は停滞し、近代化の進展が遅れる原因となったが、最近では工業と第3次産業部門が経済成長の重要な支えとなってきている。

各産業部門の国内総生産は、農業が14%、工業が21%、商業関連が42%、その他23%で(1996年)、農業は今でも同国の雇用と輸出の面で最も重要な地位にある。(出所; El Nuevo El Salvador, 収集資料46)

輸出総額に占めるコーヒーの割合は1956年には80%に達していたが、現在では低下している。農産物の柱はコーヒー、砂糖、綿花が輸出品目の花形であったが、近年では綿花は少なくなり、その代わりにエビの生産がさかんになってきている。

(4) 政治・経済

エル・サルヴァドルでは、軍人出身のロメロ政権が1979年に崩壊した後、左翼、右翼入り乱れての内戦に突入し、多数の死者を出す市民戦争となった。その後、1991年4月に停戦協議がもたれ、選挙制度の改革、人権侵害調査委員会の設置、農地改革への合意を見るにいたり、同年10月には停戦協定が発効した。1989年の就任当時においては極右として警戒されていたクリスティアニ大統領は、自由主義を標榜し、貿易の自由化、銀行の民営化を図るとともに外国か

らの投資の促進を積極的に図る政策を実行した結果、90年の実質経済成長率は3.4%を記録し、その後、1991年以降は5%～7%の経済成長を成し遂げている。

一方、インフレ率は同時期に平均10%前後であったが、96年には7.4%に下がり、その後も下降傾向にある。対米ドル交換率も最近5年間は8.7コロンと安定し、安定した経済情勢を反映している。貿易収支は13.6億ドルの輸入超過（1995年）であるが、その超過額は毎年減少しており、輸出額の増加が著しい。（資料；エル・サルヴァドル、開発途上国別経済協力シリーズ 第2版、およびInforme Economico 1997）（収集資料47, 58）

1989年に銀行の民営化を図って以来、1997年には通信事業、年金事業、電力事業の民営移管を決め、中米一の経済の自由化を進めている。また、西暦2000年までには資本投資と素材製品に対して関税を撤廃することが計画されており、当国経済の目標は世界的競争力をつけた産業の育成と、外国資本に対し解放された市場経済、経済自由化を徹底することにある。

表5-4 近年の経済指標の推移 (GDPの単位はUS\$)

項目	1993 年	1994	1995	1996	1997
GDP成長率 (%)	7.4	6.0	6.4	2.1	4.0
GDP (万ドル)	6,938	8,086	9,501	10,406	11,441
1人当たり GDP	1,278	1,457	1,706	1,798	1,936
インフレーション率 (%)	18.6	10.5	10.1	7.4	6.0*

(出所：Indicadores Economicos(1992-97), BANCO CENTRAL DE RESERVA, 1997)

エル・サルヴァドル共和国中央政府の組織構成は、図5-8に示すとおりで、大統領と国会の権力分立による非常に強い大統領制をしいている。大統領は閣僚の任命権を有し、国会の信任によらない。大統領の任期は5年で再選が禁止されている。

このなかで、Instituto Geografico Nacional, "Ingeniero Pablo Arnoldo Guzman"（国家地図局；以下「IGN」と略記する）は、法務省の外局に属する国家登記センター（CNR）の下部組織に位置づけられる。

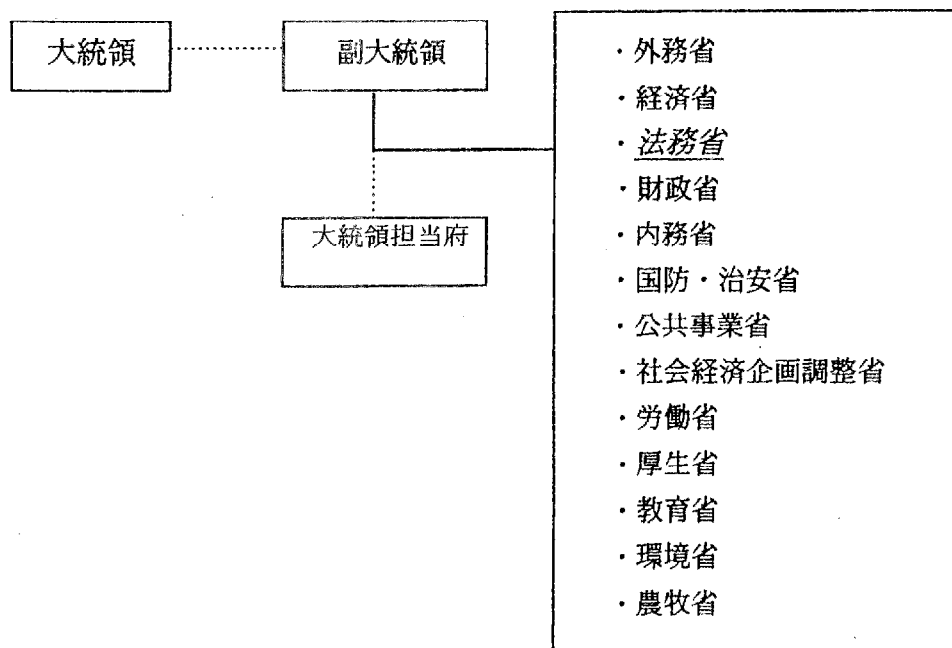


図5-8 エル・サルヴァドル共和国の政府機構図

(5) 国家開発計画等

エル・サルヴァドルでは、1979年～91年に及ぶ長期にわたる内戦からの復興のため、経済社会開発5カ年計画（1994年～98年）を策定している。同計画では、内戦で荒廃した地域の再建と、地方の農業従事者を主とした低所得者層に対する生活環境改善等を柱とした国家の再建、経済開発、環境保全と国土開発等を内容としている。

また、1994年には、「国家環境戦略」が社会経済企画調整省によって策定され、国家の環境と開発の戦略が示されている。（参考-1；本章末）

1998年には、「エル・サルヴァドル国家計画（案）；Bases Para El Plan De Nacion」が国家開発委員会によって示され、国家の将来像、貧困の根絶、安全で経済的活力に満ちた社会の実現、平和と良好な環境の追求等の基本理念にふれている。（参考-2；同）

一方、地方レベルの開発計画として、市町村のレベルで「市町村総合発展計画；Plan de Desarrollo Municipal」（我が国の市町村の総合計画に相当するもの）を策定しているが、これまでのところ、個々の市町村自らがこのような上位計画を策定したことはない。この計画策定は国内のコンサル会社に委託して作成したもので、USAIDの融資と、ドイツの協力機関であるGTZの支援のもとに策定している。

これらの計画内容は、各自治体の主要事業の名称、年次別財政計画を示したもので、具体的な開発計画の内容、位置を表わしたものではない。

参考-1「国家環境戦略」社会経済企画調整省環境対策事務局，1994年9月（目次仮訳）

序 論

I. 開発と環境に関する経緯

A. エル・サルヴァドルの環境の状況

各分野の開発／都市と農村の開発／環境への影響

B. 開発戦略と資源利用の影響

輸入代替戦略／1980年から1989年の抑制戦略と関与の拡大／構造調整戦略
／経済政策の実施

C. 貧困、人口、環境

貧困、人口と環境悪化の関係／その他の社会指標／現行の社会政策／社会政策
の懸案事項及び環境との関係

D. 法律と制度の枠組み：現状

法的枠組み／制度の枠組み

II. 主要な問題と改善戦略の提案

A. 森林伐採

問題の規模／経済社会と環境への影響／問題の主な原因／目標と戦略の提案

B. 土壌劣化

問題の規模／経済社会と環境への影響／問題の主な原因／目標と戦略の提案

C. 河川集水域の悪化と水資源の枯渇

問題の規模／経済社会と環境への影響／問題の主な原因／目標と戦略の提案

D. 沿岸、海洋資源の枯渇

問題の規模／経済社会と環境への影響／問題の主な原因／目標と戦略の提案

E. 生物多様性の減少

問題の規模／経済社会と環境への影響／問題の主な原因／目標と戦略の提案

F. 汚染 問題の概要／目標と戦略の提案

G. 部門横断的効果のある戦略

自然空間の管理／環境教育

III. 環境管理と参加の仕組み

A. 法律と制度の改革

B. 環境管理の手段

環境影響評価／生態系と経済に関する条例／国家環境情報システム／環境モニタ
リング／エル・サルヴァドルの環境基金

C. 参加の仕組み

D. 国家環境戦略の調整メカニズム

参考-2 「エル・サルヴァドル国家計画(案)」国家開発委員会, 1998年1月16日 (目次仮訳)

- I. 要約
- II. 序論
- III. 国家の将来
- IV. 発展の概念
- V. なにが国に必要なか
 - (1) 疎外された人のいない貧困の根絶を目指す社会
 - (2) 文化の担い手としての気概に満ちた参加型社会
 - (3) 法治国家における司法制度を備えた安全な社会
 - (4) 公正で競争力ある経済と良好で豊富な就業機会を備えた社会
 - (5) 世界の国々と現実に協力できる国境のない社会
 - (6) 環境を合理的に管理する社会
 - (7) 平和共存に必要な価値観に基づいて行動する強固に結びついた家族で構成される社会
- VI. 責務
 - 1. 政治
 - (1) 民主主義の強化: 政治的合意、選挙改革と政党法
 - (2) 権限と行政の分散: 政治と行政の再編成
 - (3) 国家の役割の再定義: 目的の再定義、公共倫理の担保
 - 2. 教育と文化
 - (1) 文化の新しい基礎: 家族構造の統合、価値観の効力、誠実で名実優れた責務
 - (2) 教育制度の改革: 教育改革の深化、科学技術の優先的開発、教員の養成
 - 3. 社会経済
 - (1) 国家生産に関する新たな責務: 開発優先地域の決定、中小零細企業の発展的な統合、財政部門の責務、行動と責任並びに利益と犠牲、財政改革、マクロ経済の安定、国境のない経済、経営者と労働者の新たな関係
 - (2) 基礎的条件の充実
 - (3) 環境の保全と管理: 国土整備と都市管理、水資源の開発、管理、利用、供給、地域と資源の保護、組織の再編と強化
 - 4. 市民参加
 - 組織レベルの強化と参加、市民の責務、専門家の責務
 - 5. 国家体制
 - (1) 行政の近代化: 組織体制の再編成、法的枠組みの近代化、進捗状況と成果の評価
 - (2) 人材開発のためのネットワークの強化
- VII. 方法論
 - 目的、方法の検討、参加する者、参加の仕組み、進捗段階と期間
- VIII. 終論

参考・引用文献

JICA (1995) : 『エル・サルヴァドル』. 開発途上国国別経済協力シリーズ, 第2版, 1-73.

Editorial Piedra Santa S. A. de C. V. (1996) : “ Geografia Visualizada, El Salvador”

Travel Book & Language Center (1997) : “ On Your Own In El Salvador”

BANCO CENTRAL DE RESERVA (1997) : “ Indicadores Economicos (1992-97)”

IGN (1977) : “Atlas Escolar”, 29-36.

国立天文台編 (1998) : 『理科年表 平成11年』.

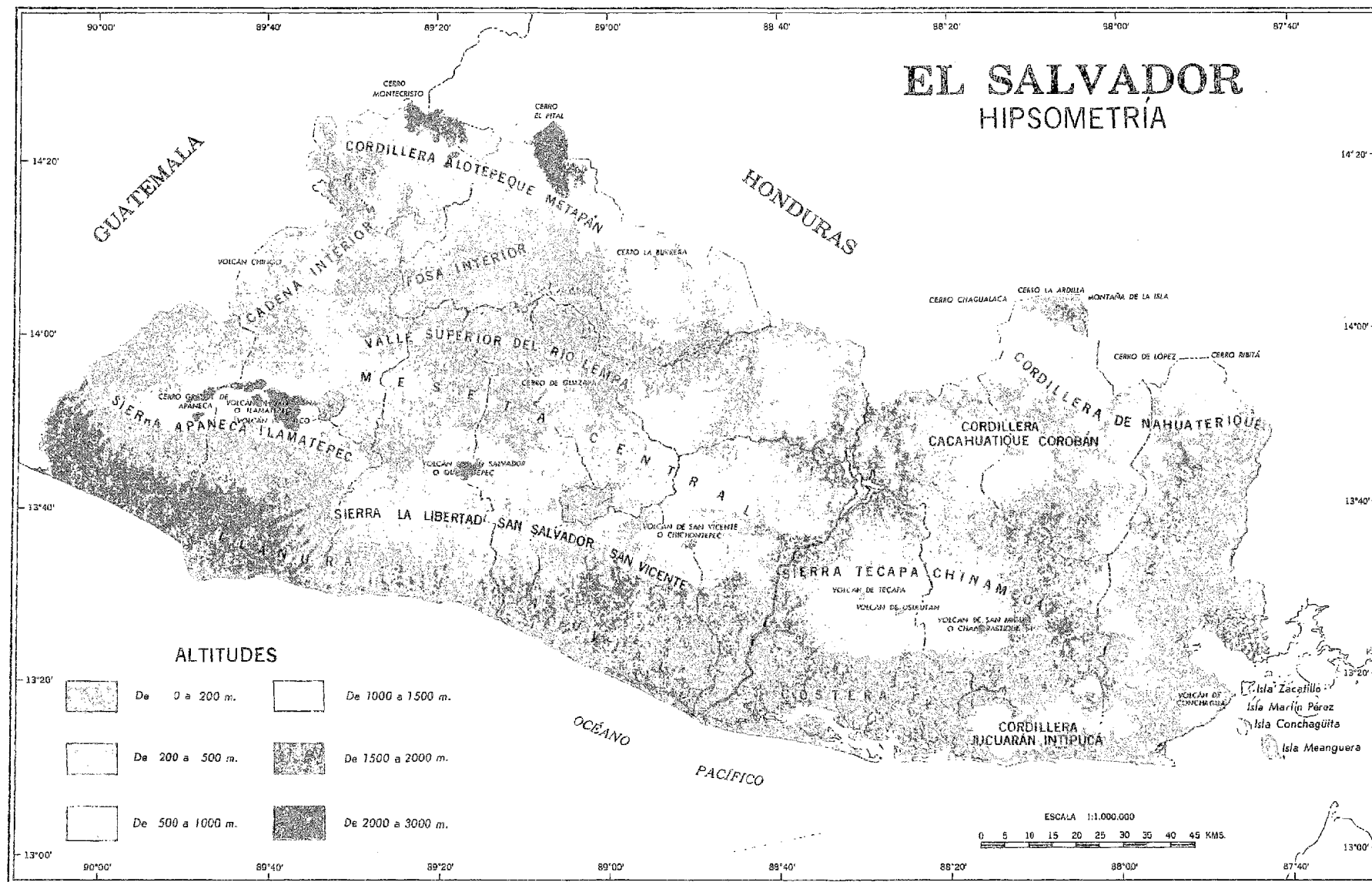


图5-3 标高区分图 (Atlas Escolar, IGN, 1997)

図5-4 地震予想震度分布図 (Atlas Escolar, IGN, 1997)

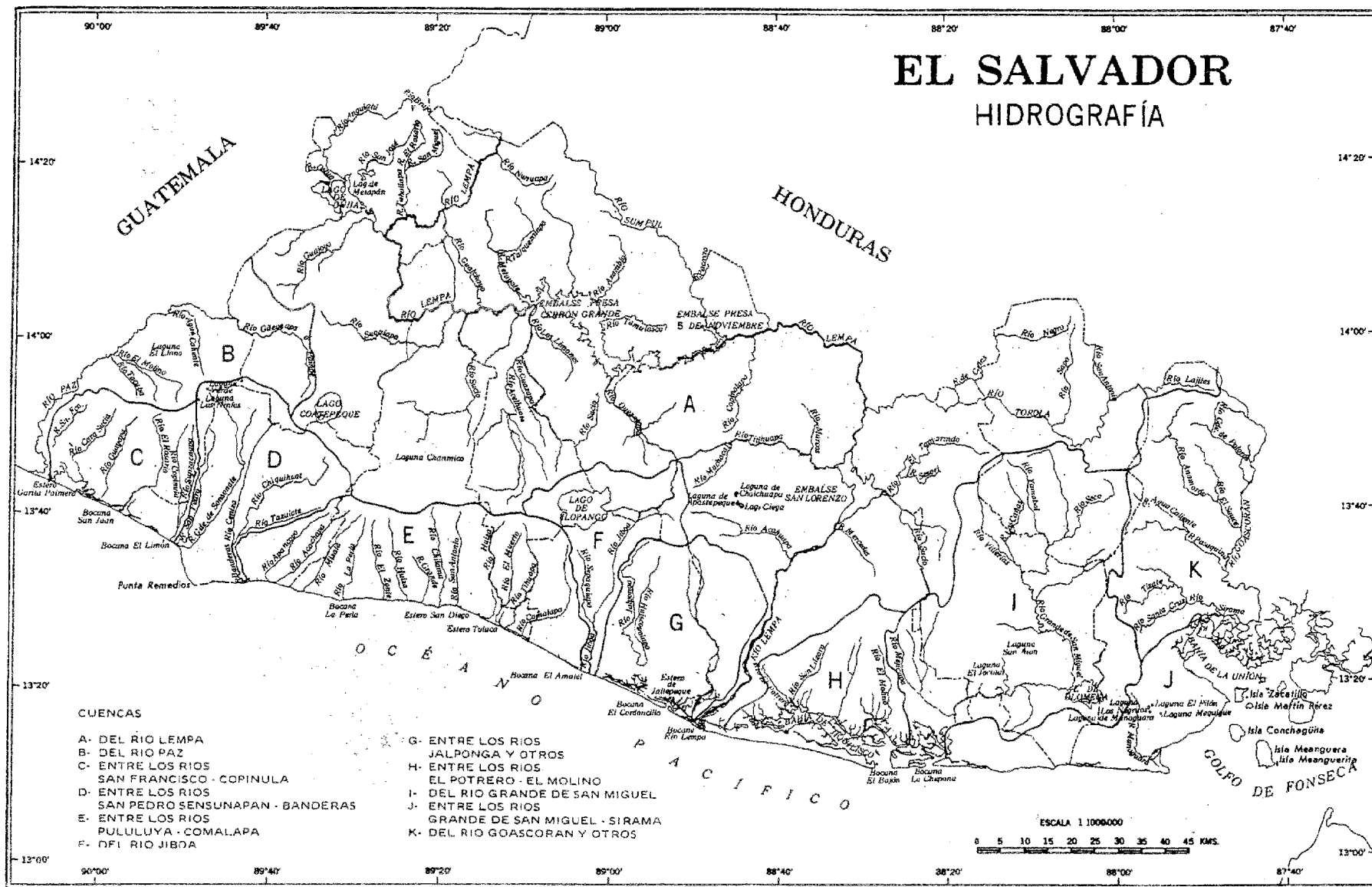


图5-5 主要水系图 (Atlas Escolar, IGN, 1997)

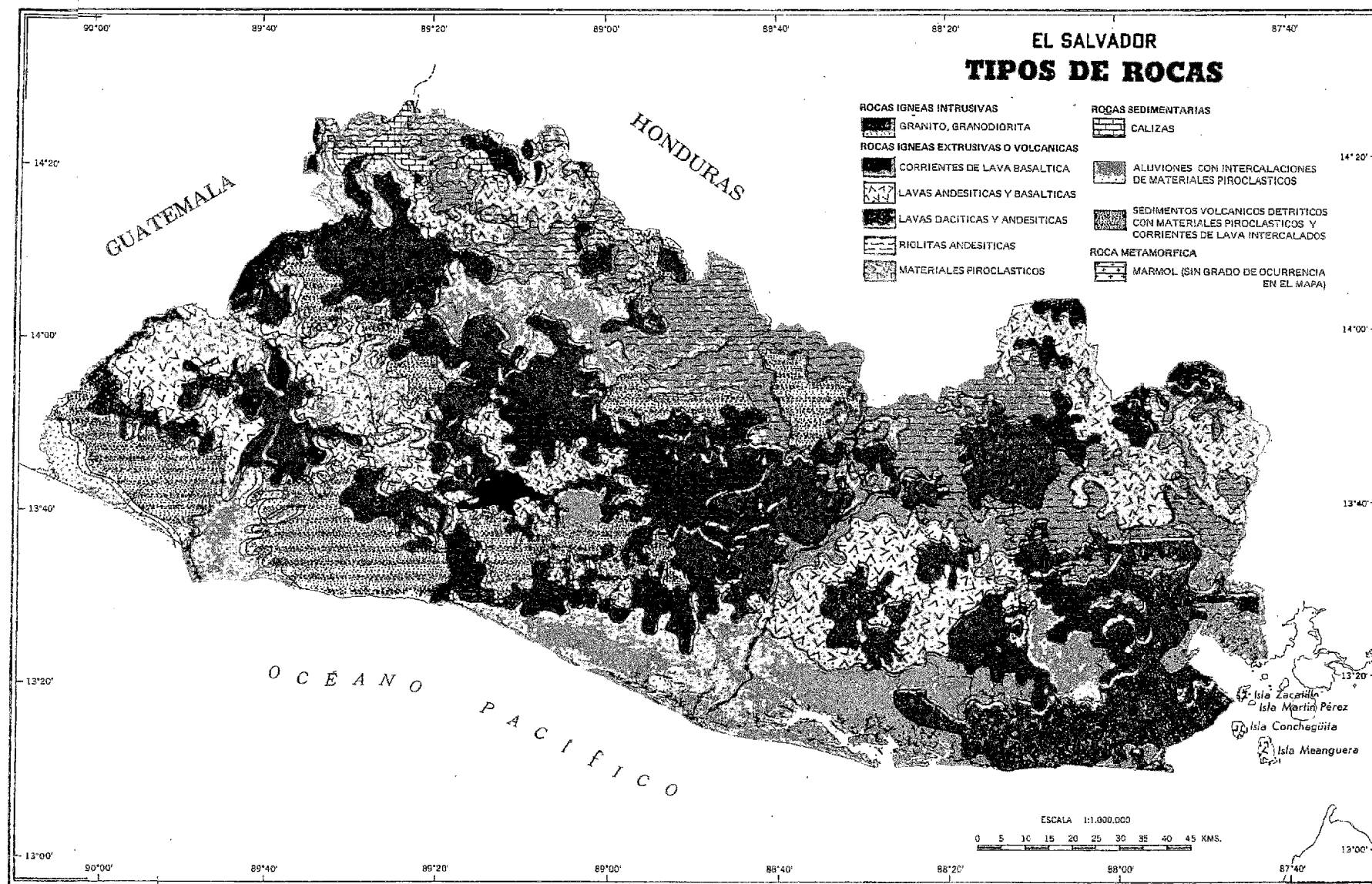


图5-6 表層地質圖 (Atlas Escolar, IGN, 1997)

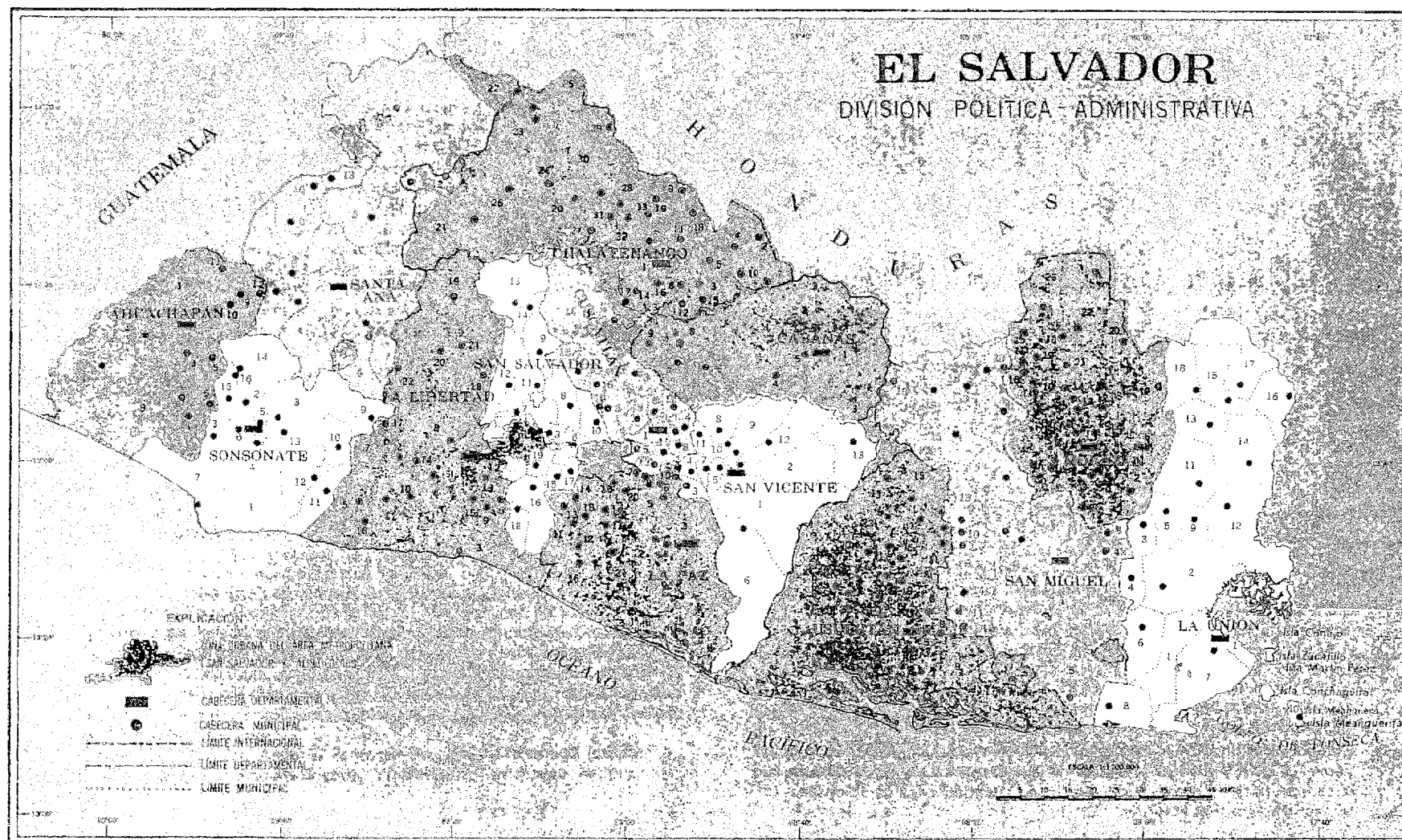


表5-1 10階級区分月平均雲量気象情報（農牧省、1998）

MINISTERIO DE AGRICULTURA Y GANADERIA 農牧省
DIRECCION GENERAL DE RECURSOS NATURALES RENOVABLES 再現可能天然資源総局
DIVISION TECNICA DE METEOROLOGIA E HIDROLOGIA 気象・水文技術部

INFORMACION CLIMATOLOGICA DE PROMEDIOS MENSUALES DE NUBOSIDAD

EXPRESADA EN DECIMOS DE LA BOVEDA CELESTE (n/10) 10階級区分月平均雲量気象情報

UBICACION GEOGRAFICA 地理的位置

ヌエバコンセプシオン（チャラテナンゴ） 北緯 LATITUD NORTE LONGITUD OESTE 西経 ELEVACION 高さ
NUEVA CONCEPCION (CHALATENANGO) 14° 07.5' 89° 17.4' 320 msnm
ラ・ランパ LA PALMA (CHALATENANGO) 14° 17.5' 89° 09.7' 1000 msnm
(チャラテナンゴ) ヌエバコンセプシオン

		'1996		'1997		'1998	
		NUEVA CONCEPCION	LA PALMA ラ・ランパ	NUEVA CONCEPCION	LA PALMA	NUEVA CONCEPCION	LA PALMA
1月	ENERO	2.3	2.8	2.8	3.7	2.0	3.0
2月	FEBRERO	2.3	3.4	2.7	3.8	2.1	2.7
3月	MARZO	1.8	3.1	3.0	4.1	3.0	3.5
4月	ABRIL	0.7	6.7	4.2	4.9	2.5	4.3
5月	MAYO	7.8	7.4	6.6	6.4	5.0	5.5
6月	JUNIO	7.2	7.6	7.5	7.4	6.8	6.5
7月	JULIO	7.6	7.2	6.1	6.1	8.0	7.1
8月	AGOSTO	7.2	7	5.9	6.0	7.9	7.2
9月	SEPTIEMBRE	7.8	7.8	8.2	8.3	7.9	7.7
10月	OCTUBRE	7.0	6.9	5.2	5.6	8.0	7.9
11月	NOVIEMBRE	5.2	5.2	6.5	6.2		
12月	DICIEMBRE	2.1	2.9	2.9	3.8		



FUENTE: AGROCLIMATOLOGIA/3/12/98
情報源を農業気象学 3/12/98